

2022年6月13日（月）

老球の細道673号

まず誉めよ！

会津バスケットボール協会 室井 富仁

東大生がよく読んでいる外山滋比古著『思考の整理学』〈ちくま文庫〉と言う本がある。バスケットボールの独創的なドリルを開発するために30年も前に購入して読んだ本であるが、最近なんとなく再読してみた。その中に「ホメテヤラネバ」という章があり、ピグマリオン効果について書かれてあった。

【ピグマリオン効果と言うのがある。40人の生徒のいるクラスを20人ずつ二つのグループA、Bに分ける。学力は平均して同じようにしておく、まず第1回のテストをする。Aのグループには採点した答案を返すが、Bのグループの答案は見もしないで、教師がひとりひとり生徒を呼んで、テストの成績は良かったと告げる。もちろん、でたらめである。しばらくしてまた、第2回のテストをする。前と同じようにAグループには点のついた答案を返し、Bグループにはひとりひとりを呼び出し、今度も良くできていた、と答案を見せず、返さずに伝える。生徒はいくらか不審に思うが、誉められるのは悪くない。こういうことを何度か繰り返したあと、今度は全員の得点を採点、AB両グループの平均点を出してみる。すると、誉めていたBグループの方がAグループより点が高くなっている。これがピグマリオン効果と呼ばれるものである】

〔ピグマリオン効果：ギリシャ神話の中で、ピグマリオン王の恋した女性の彫像が、その願いに応じて美しい人間の女性になったという伝説から、教育心理学で、教師の期待によって学習者の成績が向上することを表す。人間は期待通りに成果を出す傾向がある〕

先日、県バスケットボール協会定例理事会においてU-12部会の方から、『確認書』なる資料が提出された。内容は、指導者が練習や試合において、JBA「指導行動の指針」を意識した立ち振る舞いに配慮し、プレイヤーに対する暴言、暴力的な振る舞い、第三者が不快と感じる振る舞いを行わないという宣言書である。大会において指導者に提出させるという。

数年前からバスケットボール界のみならず、スポーツ界においては、選手に対する暴言、暴力は絶対ダメという取り決めがなされたが、残念ながらいまだに暴力、暴言のなくなるところがあるので再度自省を促そうということになった。

私は現在孫育中のロンリー爺であるが、誉めれば誉めるほど孫はやる気を増し、あらゆるパフォーマンスも向上している。ほめて伸び、けなされて伸びないのは子どもだけでなく大人も同じである。外山滋比古氏がさらに著書で言っている。「お互いに自分の過去を振り返って、とにかくここまでやって来れたのはだれのおかげかと考えてみると、たいていは、誉めてくれた人が頭に浮かぶのである」。

私も高校時代の恩師菊地長康先生の褒め殺しに出会っていなかったら、今までバスケットボールを続けて来れなかっただろう。指導者は心しなければならぬ。「まず燃えよ、燃えない焚火を誰が囲もうか！まず誉めよ、誉めないコーチに誰がついて来ようか！」。